

令和3年度 地域でつながる家庭教育応援事業

第1回地域家庭教育推進県北ブロック会議

日時：令和3年7月8日（木） 14:00～15:30

場所：福島県教育会館 第1会議室

参加者：構成員18名 行政関係者・事務局等11名

<地域でつながる家庭教育応援事業の推進について>



1 令和2年度 of 取組について(○成果と●課題)

(1) 地域家庭教育推進県北ブロック会議

第1回 6月16日開催

- 2つの情報提供をもとに「face to face～自己肯定感を形成するためのコミュニケーションの在り方～」について構成員それぞれの立場から専門的な話をいただくことができた。
- 明らかになった視点や各構成員の意見をいかに講座や研修・会議等と関連付け、テーマに基づく家庭教育支援を進めていくことが課題である。

第2回 書面開催

(2) 親子の学び応援講座

- 参加者は、「コーチング」の基本を「承認」や「傾聴」等の具体例から学ぶことや家庭内での親子関係作りのヒントを得ることができた。
- 県北地区の家庭教育のテーマと連合PTAのニーズをうまくリンクさせて講座の内容検討や講師選定をしていく必要がある。

(3) 家庭教育支援者地区別研修会

- 清水国明氏のわかりやすい講演と参加者同士の話し合いを交えた演習を通して、子どもたちの自己肯定感を高めるために必要なことを参加者全員で共有することができた。
- コロナ禍における家庭教育支援の在り方について講演や演習の内容などを検討し、より充実した研修になるよう改善が必要である。

(4) 家庭教育応援企業推進活動

- 県北の家庭教育応援企業通信の発行により家庭教育の重要性について企業及び従業員へ啓発することができた。「働く親の姿を見せる」「積極的な子育て支援をする」などの具体例を取り上げ、登録企業が家庭教育を推進するためのヒントにすることができた。
- 登録企業が家庭教育推進に向けて、より積極的な取組が展開できるように支援について検討していくことが必要である。



2 令和3年度の取組について

(1) 地域家庭教育推進県北ブロック会議

- ① 構成員にフリースクール代表と学校教職相談員を加え、新たな視点からの意見を伺う。
- ② 第2回を1月20日に開催予定

(2) 親子の学び応援講座

- ① 県北地区の家庭教育の課題や連合PTAのニーズに合った講座を開催できるように講師選定等の支援を行う。

(3) 家庭教育支援者地区別研修会

- ① 11月18日(木)福島県青少年会館にて開催予定
- ② 情報交換や交流等により受講者の横のつながりを構築できるような内容にする。

(4) 家庭教育応援企業推進活動

- ① 各中学校区ごとに応援企業をまとめ、家庭教育推進に協力していただける企業を学校に紹介できるようにする。
- ② 県北の家庭教育応援企業通信の発行及びホームページ掲載による家庭の教育力向上に関する啓発を行う。

3 メディアコントロールの在り方についての意見や把握している情報について

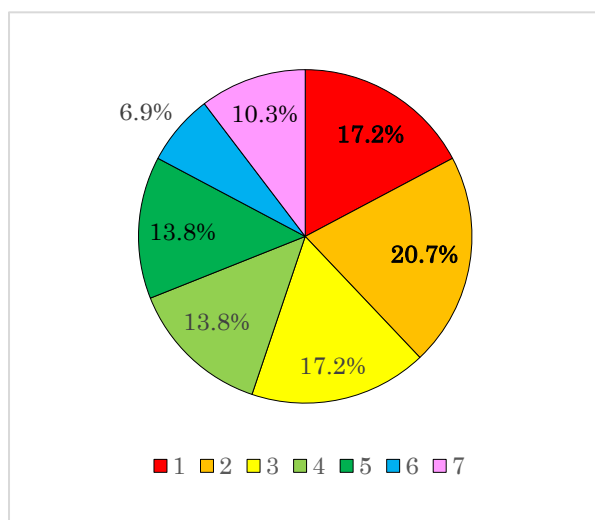
今年度より新しいテーマ「メディア（SNS）コントロールの在り方について」で話し合いをするにあたり、ブロック会議構成員の皆様は「SNSを中心とした子ども、保護者を取り巻く環境について、特に課題だと感じる事柄」について事前アンケートを行いました。

<アンケート項目>

- 1 生活習慣の乱れ
- 2 動画視聴・ゲーム
- 3 家族間のコミュニケーションの希薄化
- 4 ルールの作成や遵守の難しさ
- 5 SNSに起因するいじめ、不登校、性被害
- 6 フィルタリング設定の徹底
- 7 様々な危険性についての正しい知識の習得

事前アンケートの結果から、ブロック会議構成員の方々は、どの項目も課題であると感じています。

<事前アンケート結果>



<協議の内容から>

家庭内での SNS 状況はどうなっているの？

一緒にいる時間が増えたにもかかわらず親子の会話がな

みんなでテレビを囲んでいた時代と違い、近くに誰もいない状況下でそれぞれがスマホを使っている。

親はコミュニケーションをとることを心がけたいと思っている。しかし、現実には、どうしたら良いかわからない。



子どもを静かにさせるためのスマホ育児が一般的

ルールについて、きつく言うと思春期の子どもは反発するばかりで効果なし。

学童での様子を知らせても、それを手がかりにコミュニケーションを図っている様子が見られない→誰かに子育てを任せる傾向。

オンラインゲームは、仲間で行うため勝手に抜けられない。
→親子だけでは解決できない→ルールが作れない。

SNS によるいじめ、不登校、性被害、その他の様々な危険に巻き込まれることが心配です

ゲームの中で仲間外れになるような書き込みや画像加工によるいじめがある。

いじめをしている側に加害者意識が無いことが問題。

性被害の問題は低年齢化しているので、現在、小学校においては大きな被害が無いとしても危機感を持つことが必要。



人には無関心だが、タブレットやロボットにしか興味を示さない→人の目を見られない、教師の指示が届かない

性被害・大麻・家でなど SNS にかかわる問題は今後も増えていくのは明白。

すぐには変わらなくても、こんなことをしてはどうでしょう

子どもを支える家族を支える地域（話を聞いてあげられる場）があればよいのでは。



専門家の話や「もし、自分がこうなったら・・・」というようなバーチャルな体験をしてみても。

親の心にフィルタリングを！

具体的な事例を教えることで怖さを知らせるのも必要では。

子どもの異変（ため息、うつろな様子）にすぐに気づけるようアンテナを高く!!